敬老会にてご披露頂いた「次世代に引き継ぎたい『証』」その２

「卒寿のつぶやき」

長寿会　佐野　いし子

昭和２０年７月７日、二度にわたる大空襲により千葉の中心街は火災につつまれ一夜にして焼野原になりました。私は当時１７才、空襲を逃れて家族で都川の土手に逃げました。兄は徴兵にとられ残されたお嫁さんは産後の肥立が悪く女の児を残して亡くなりました。栄養不良もあったと思います。その赤ちゃんを背負い逃げたのです。私の母親は何もないその時にどうやって育てたのか、今考えても想像がつきません。私達一家は運よく全員が生きのびることが出来ました。

夜が白々と明け地面にはまだ熱気が残る熱い中を自宅跡に戻ると、きれいに焼けていて柱一本も残っていませんでした。木製の風呂桶のまわりは黒焦げ。でも中の湯は残っていました。田舎よりもらったじゃが芋と玉葱がこんがりと焼跡でむし焼きになって居り何よりの食事となりました。飲み水は風呂の残り湯をきたないとも考へずに飲みました。防空壕の中は全部火が入り丸焼けとなって居り、これで本当に何もかもなくなったと実感した一瞬でした。都川の土手は逃げ惑う人達であふれ、その人達の大半が魚市場のまぐろの様に土手に転がって居りました。

息をしているのか死んでいるのかさえわかりません。血は出ていないのです。その人達を飛び越え、とびこえ自宅に走ったのです。橋の袂でぐったりとして冷たく動かない母親のオッパイを口にして泣いている児がいたのです。その人は私の近所の人でした。その時私はその親子を見ても何の感情もわかなかったのです。恐ろしい事です。人は生死の極限になると何を見ても心は動かず流れにのり動くだけだと知りました。

時の流れは早く１７才の乙女も卒寿となりました。現在の私は幸せに生きております。今一番の望みは平和がずっと続くことのみです。孫、ひ孫にあの様な悲惨な思いはさせてはなりません。私のつぶやきが平和の大切さを少しでも感じていただけたら幸いです。

「卒寿のつぶやき」を
語られる
佐野いし子さん

SEVENTH-DAY ADVENTIST CHURCH

ぶどうの枝

2017年
冬号

天が地よりも高いように…（６）

千葉キリスト教会　牧師　磯部　豊喜

入間川教会でのポンコツ牧師の初期の活躍を二つばかり（ただ聖書には「あなたは誇ってはいけない」とありますが、ここは許していただき）書き留めたいと思います。その一つは、私ども牧師家族の歓迎会が着任日の安息日（土曜）ではなく、翌週になったことで一つのことを達成することが出来ました。それは牧師の歓迎会に、出席された教会全員の名前をスラスラと言うことが出来たということです！着任わずか一週間そこそこで全員（40名近くの）名前を諳（そら）んじさせて頂きました。

これにはカラクリがあります。それは着任するまでに以前から手元にあった「入間川教会40周年記念誌」に、教会員の名前付き写真があり、それを前もって何度となく眺めていたこと、その記念誌の中に入っていない方々については、着任日にこっそりと「あの方の名前は…」と聞きまわって、覚えた事です。私自身名前を覚えられると嬉しいので、この時は頑張りました。

ところが近年、この記憶装置がめっきりと錆びてしまい、千葉では１年過ぎても時々「え～と、あの方は誰だったかな」とつぶやく始末で、脳軟化症におびえています。いま一つは、この入間川教会で着任早々でしたが、牧師として初めての講演会講師（５日連続）をすることになり、この講演会を見事に（？）乗り切ったことです。

実はこれにもカラクリがあります。初めての体験には、当然身も心も震えます。そのような頼りなき自分を支えて頂くためには、天からの知恵と力を頂く以外にないと心に定めました。そこで入間川教会にて一日の断食祈祷会を土曜～日曜日（24時間）に行うことを発案し、アピールしました。すると入間川教会員の強者（つわもの）が何と30名以上参加してくださったのです。これには本当に力づけられ、講演会を終えて後、あるベテラン教会員からは、「牧師さんは、これが本当に初めての講演会なのですか」というお褒めの言葉を頂戴することが出来ました。

礼拝前の磯部牧師

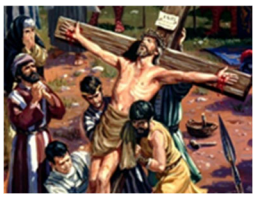
聖書の中に「わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」（Ⅱコリント12:9【口語訳】）とありますが、私磯部の能力や力ではないことを、この経験を通して、しかと味わわせて頂きました。しかもこの講演会がきっかけで、一人の方がキリストを信じて「永遠の命」に救われたことは、とても嬉しい思い出となっています。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ書55章8,9節）

「輝いて生きる力（その２）」

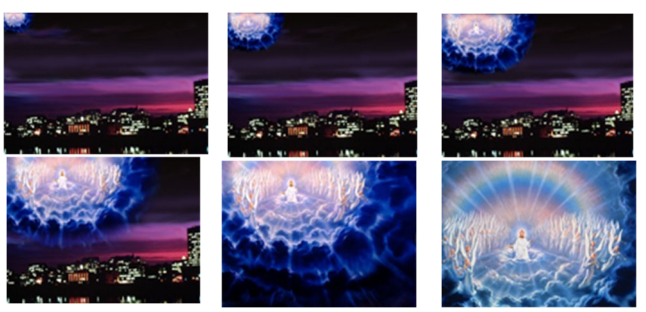
２０１６年１１月５日千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』（午後の部）から

千葉キリスト教会　牧師　磯部　豊喜



イエス・キリストというこのお方は、とても「素晴らしいお方です。人の罪は悲しまれますが、罪人を赦されるお方です。このお方は、私どもを罪と滅びから救うために、神様であったのに人間になって、十字架にまでかかって死んでくださったお方です。そして三日の後に死から復活し、今も生きておられるお方なのです。私どもの教会では毎週土曜日にキリストを礼拝します。なぜこのお方を礼拝するかというと、それはこの方が今も生きておられることを聖書によって信じているからです。・キリストは死から甦って、弟子たちの見ている前で、雲に包まれて天に昇って行かれました。天の国を準備するためです。

そして世界歴史の最後に、信じる者に永遠の命を与えるために再びこの世界にお出でになります。この光景を皆さんにお見せしましょう。



世界歴史の最後に、イエス・キリストは私どもを天国に迎えるために今度は天の雲に乗って来られる、唯一の救い主です。このイエス様に出会うということは、素晴らしいことです。

この日に、私たちは死別した愛する者と、再会する可能性があると約束されています。皆さん一人ひとりが聖書を通して、愛の人イエス様に出会って、神を愛し、人を愛し、未来に備えをしつつ、希望に満ちた人生を送って頂きたく心より願っています。

ところで、皆さんは、この言葉を知っていますか？「トラ・トラ・トラ」これは今から75年前（昭和16年12月8日）日米開戦の火蓋がきられ、ハワイ真珠湾奇襲攻撃の成功を打電した「われ奇襲成功せり」という意味を持った暗号文です。この暗号文を打電した時の、第一次攻撃隊長の名は淵田満津男さん。

この人は、戦前、戦中、日本の敵国であった英国や米国をとても憎むべき敵として受け止めていました。ところが、こうして始まった日米の戦争はご承知のように日本の敗北で幕を閉じました。ただ、この日米開戦時の英雄となった淵田さんは、危険な太平洋戦争の飛行気乗りであり、幾度も死の淵にあって、最後まで奇跡的に生き延びました。淵田さんは４年後、敗戦国家の一員となり、あのミズリー艦上で「無条件降伏」の調印式に列席し、その後、戦後処理にあたったのですが、後に聖書を手にし、イエス・キリストに出会って物の考え方や、生き方が全く変えられました。終戦後の淵田さんは、連合国側の勝者による一方的な戦犯裁判を憎んで、何かしっぺ返しをすることは出来ないかと反感を燃やしていました。

３ページに続く

ところが、その矢先にアメリカから日本軍捕虜が送還されてきたのがきっかけで、ある人からこんな話を聞くのです。

「終戦の半年ほど前のこと、捕虜収容所に一人のアメリカ人女性が彼らのキャンプに現われた。年は２０歳前後の若い女性。この女性が日本人傷病兵に懸命の奉仕を始めたと。それを不思議に思った捕虜の一人がこう聞いた。『お嬢さん、どういうわけで、こんなに私たちを親切にしてくださるのですか？』この女性は、初めは言葉を濁していたが、あんまり問い詰めるので、遂に話し始めた。『いいえ、私の両親があなたがたの日本軍隊によって殺されたからです』と言った。」

ここまで聞いた淵田さんは、驚き身を乗り出して「もっと詳しく聞かせてくれ」と言いました。・・・・女性の名はマーガレット・コヴェルさん。彼女の両親は、昔日本に遣わされたバプテスト系の宣教師であったとのこと。この両親は、日米開戦となり、フィリピンのマニラに移住。その後、マニラは日本軍の占領地となったのでコヴェル夫妻は難を避けて、北ルソンの山中に隠れました。日本軍は３年間はコヴェル夫妻に寛容でした。

しかし戦局が悪化するにつれ、日本軍はコヴェルさんたちをスパイとして断定し、彼らは殺されることになったのです。

その一部始終を彼女は両親の死後、両親の最後の様子を見ていた土民の報告から知らされました。両親を失った悲しみで、涙が溢れました。そしてスパイではないのに両親を処刑した日本兵に対する怒りで胸はハチキレルほどでした。報告によれば両親の宣教師夫妻は両手を縛られ、目隠しをされて、日本兵の振りかざす日本刀の下に引き捕らえながらも、二人は心を合わせて熱い祈りが捧げられていたという。マーガレットは、地上におけるこの最後の祈りで、両親は、どのように祈られたかを思いました。するとマーガレットの胸に、私はこの両親の娘として、両親の祈りを思うとき、私のあり方は、憎いと思う日本人を憎み返すことではない。憎いと思う日本人達に対してこそ、両親の志をついでイエス・キリストを伝える、宣教に行くことだと思った。しかしすぐに日本には行けない。

その時、自分の住んでいる町に、日本の兵隊が捕らえられている捕虜収容所の病院のあることを知った。捕らわれの身でありながら、傷つき病んでいる。それを思って、看護師を志願したという…。

この話を聞き淵田さんは感動しました。そしてその後、淵田さんは聖書を手にして、ルカ23章34節【文語訳】に出会います。これは淵田さんの聖書に書かれた自筆。

「かくてイエスいい給う、父よ、彼らを赦し給え、その為す処を知らざればなり」。

その時、ああ分かったと淵田さんは頷きました。あのマーガレット・コヴェルの両親の宣教師夫妻の祈りが分かった。そしてこの言葉を自分にも当てはめてみました。「そうか、私は47年と言う長い年月を『何をしているのか分からず』過ごしてきたのか」と思いました。

４ページに続く

「自分も真珠湾で敵を憎み３千人も殺したのだ。私は、その遺族達を思い、胸のうずくのを覚えた。私は神を知らなかった。神を知らないで、神から離れている存在が不義であって、これを罪というのである」と淵田さんは語っています。

淵田さんは、やがてクリスチャンとなり、かつて敵国であった米国へ飛び、懺悔と告白のための伝道旅行をする人に変えられました。キリストの愛に触れると人の品性が変わるのです。

淵田さんのことをもっと知りたい方は、是非、この本を求められると良いと思います。それは「真珠湾攻撃総隊長の回想」（講談社出版）という本です。

ここで午前中、途中まで話をしました勝谷忠さんの続きをお話しましょう。聖書によってキリストに出会った忠さん、しかし度重なる犯罪を犯し刑務所の世話になり、家族に迷惑をかけていた忠さん、義母に籍まで抜かれてしまったのですが、その義母に会いに行きます。玄関を開けると義母が編み物をしていました。「お母さん久しぶりです」という、忠さんの姿を見た義母の形相が変わりました。

プイと後ろ向きなって「何しに来た！あんたなんかにお母さんと呼ばれる筋合いはないなぜこの家に来た。出て行ってくれ！」と怒鳴った。忠さん、瞬間、「やっぱりダメか」との思いが脳裏に走ったが、ここに来た目的を思い、勇気を出して「お母さん、僕が今日来たのは、僕がお母さんに犯した罪を許して頂くためです。僕はお母さんに対して悪い人間でした。今、僕はイエス様を信じて、初めてお母さんに対して罪深い者であったことを知ることが出来ました。」･･･「僕はお母さんが冷たい人だと思っていました。しかし、自分の子でもない者に、ごはんをつくり生活の世話をすることは大変なことだと分かったのです。そんなことも理解しないで、僕はお母さんを困らせることばかりしてきました。本当にごめんさない」。

忠さんは涙をながしながら謝りました。やがて、母の肩がかすかに震え、「あなたからこのような言葉を聞く日が来るなんて思ってもいなかった。あなたも苦労したのね。あなたのそのような言葉を聞くことが出来て、今、はじめてこれまで生きていて良かったと思った」と。義母の声も涙で震えていました。こうして息子と母は和解し、心をしっかりと結ばせ、本当の母子になったと証されています。聖書を通して神の愛を知り、天の神様との関係が回復しました。神様との関係が回復すると、この忠さんのように、険悪な家族の関係も回復し、輝く人生を送ることが出来ます。（次号に続く）

２０１６年１１月５日（土）千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』にて講演された午前の演題「闇を追いやる力」は「ぶどうの枝５、６、７号」に掲載いたしました。

今回掲載の記事は、同日の午後の演題「輝いて生きる力」です。

「ぶどうの枝秋号（第８号）」に続き、今回の「冬号（第９号）」、次回の「春号（第１０号）」の、３回に亘り連続で掲載させていただいております。

「誤解に基づく信念」

千葉キリスト教会　徳永　奎三

今日のタイトルは、「誤解に基づく信念」と言う、偉そうな良く分からないような名前を付けてしまったのですが、2週間位前に係の方から、「テーマだけでも決めて下さい」と言われたもので、“エイヤッ”とこう言う名前にしてしまったのです。

この意味は、後でお話ししますが、ある時に有名な名言と言うものを聞いたのです。その時、私は有名な言葉なのにそれを逆の方から考えてしまい、それで戸惑ってしまったことです。

まず私が初めてキリスト教と言うものに接したのは高校1年の時です。昭和25年、15歳でした。戦後10年位経って「最早戦後ではない」と言う言葉が生まれた位ですから、未だ混乱してました。しかし国は教育と言う事には熱心だったようです。高校では、非常に勉強させられました。むしろ、それ以降の大学よりも難しいことをガンガン詰め込まれました。その時の勉強の一つがギリシャ哲学で、ソクラテスとかプラトンとかを1年間勉強しました。

二つ目は、20世紀初頭の社会学者と言われるドイツのマックス・ウェーバーが書いた「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を教科書代わりに使いました。それは言うなれば、プロテスタントが、資本主義と非常にマッチした人々であると言う事を書いた本です。プロテスタントとは、いわゆる新教徒で、マルティン・ルターやカルヴァンが唱えた神学論に賛同した人々です。

近世の18世紀以来、産業革命で国家とか国民が豊かになって行く時代でした。その為には、カソリックではなくプロテスタントが考える神を敬って、敬虔で真面目で明るくて、家族を想い社会に尽くすと言うプロテスタントの精神が世界的にも認められていた時でした。ですから、高校でもそう言う教育をしたのではないかと思いました。そう言う意味では、教会でやっている様な信仰のための宗教としての“プロテスタント”“キリスト教”では無くて、道徳的な観念を大切にする人間教育、つまり宗教よりは修身的な勉強でした。

20世紀初頭のアメリカやイギリスはどんどん発展していて、国力が充実して産業も個人も大いにに稼ぎ、家庭4人に1台の車が有るぐらいで、それを慈善活動に使っていく、非常に真面目な考方などを習ったのです。立派なプロテスタントの理論と言うのを感心して聞いていました。

一方、日本は明治以降戦前までは、同じ資本主義でも富国強兵とかばかりでしたから、個人がたくさん働いて稼いで豊かになって行くなどと言う事は全然問題にされず、むしろ貧乏が良いんだとか、英雄は貧家よりいずとか、そのようなことばかり強調していたようです。

しかし、高校生の時には、大いに稼ぎなさい、立派な石油王のロックフェラーとか鉄鋼王のカーネギーのような方々のようにやって行かなければ、これからはダメだというアメリカ主義を教えられました。

そんな時、日本の宮沢賢治の有名な言葉を知ったのです。それは「世界全体が幸せにならなければ、個人個人は決して幸福になれない」という言葉です。私はその時、大変感銘を受けました。ただどういう訳か「一人一人が幸福にならなければ世界は幸せにならない」というふうに受け取ってしまったのです。順序は逆なのですが、その後、私の言ってる方がむしろ合理的じゃないかと思ったぐらいです。

そして、そういう時にキリスト教に接したので、宗教と言うよりも道徳的に立派な人々だという事を植え付けられたのです。印象深くその時を過ごすことが出来ました。

６ページに続く

その後には宮本先生の聖書研究クラスが有りました。そのクラスには本当は出たくなかったのですが、その日は、宮本先生の千葉英語学校最後のクラスの時でした。先生には聖書研究が始まる前に私がバプテスマを決心したことを伝えたところ、先生は飛び跳ねるようにして驚いて喜んでくださいました。それ迄私は先生を出来るだけ避けるようにしていたからです。バイブルクラスに出席していたとは言え、この千葉教会へ来たことも無かったですし、まして安息日の礼拝がどんなものなのか全く知らずに、勿論教理や再臨さえ知らずにバプテスマを受けるのは無謀の様にも思えます。少しずつ安斎さんからは情報は入っていましたけれども、そう言う状況からこの教会に来るようになりまして、4ヶ月位たった、7月18日に金先生からバプテスマを授けて頂きました。

その時は分からなかったのですが、学生宣教師の方々が私のために祈って下さっていたという事、つまり、私が自分で決心したのではなくて、聖霊の働きがそのように導かれたと言う事を教会に出席するようになって良く分かりました。

それから半年位は仕事を辞めたので失業保険を受給しながら家で祈り聖書を読み、あるいは次の仕事のためにタイプの練習をしたり、今思えば何と贅沢と思える生活をしていました。今の若い人たちはビックリすると思いますが、そのころタイピストの学校が有ったんですが、その学校に通ったりもしていました。パラサイトシングルの身で働きもしないで家にいた訳ですが、両親からは疎まれることもなくて、幸いに過ごすことが出来て有難かったです。そう言う機会もないと思いまして、１ヶ月ほど語学研修を兼ねてイギリスに行ったりと言う機会も得ました。その後も就職活動して何社か面接を受けるのですが、土曜日をお休みすると言う条件はとても難しくて、なかなか見つかりませんでした。そんな折、林さんと言う友人が子供の英語教室なのですが「やってみたら」と紹介されて、その研修を受けて姉ヶ崎で英語教室の仕事を少しの間していました。どうしても塾の様な所は、土曜日にクラスが集中しています。本部には、私は土曜日はお仕事しませんと言う事で理解して頂いていたのですが、土曜日の担当の方と交代が出来ないと言う現実に直面しまして、私は代わって頂いてもその方の所に私は代わってあげることはできないと言う心苦しいことが有りまして、これは長く続けられないと思いました。そんな時に金先生から、三育フーズに面接に行きなさいと言う連絡を頂いて、当時マネージャーをしていた売間さんに面接をして、直ぐに入社することになったわけです。教室の方もすぐにやめられなかったので4ヶ月ぐらいは掛け持ちで三育フーズもその間パートと言う身分で働かせて頂きました。

それから35年経ち定年も過ぎました。今またパートの身分になって働かせて頂いております。三育フーズの働きが終わってないので、三育フーズでのお話は次の機会にさせて頂きたいと思います。年齢と共に先の事を考えると信仰の薄い私は不安になったりするのですが、また新たな道へと導かれる事を信じて歩んで行きたいと思います。有難うございました。

２０１７年９月２日（土）の

「証しと賛美の集い」における

「証し」より

掲載させていただきました。

「道が開かれて」

千葉キリスト教会　佐久間　優子

タイトルが先に決めさせられてしまったので、内容が少しどうかなと言う所も有りますが、苦闘しながら過去を振り返りました。

今から36年前の事です。私はその頃、千葉市問屋町に有りました三洋電機系列の会社で働いていました。今は多分その場所には有りません。その同じビルの3階建てのビルの中に同じ三洋グループの会社が4社か5社入っていました。私はその頃、習い事をしながら事務の仕事をしていました。私が働いていたところは業務用の設備の会社だったのですが、ある時、上司に呼ばれました。私にとっては突然だったのですが、働き始めてから5年近くたっていたと思います。それは千葉の事務所を閉じて、東京の上野の本社に統合するという事で、私にはその隣にある家電部門の方に移って欲しいと言う事でした。私はショックだったのですが、家電の方には移りたくないと思いまして、その異動は断わってそこを辞めることにしました。

そして、これからどうしようと不安交じりにぼんやり考えていた時に自分の中で有る事を整理と言いますか、しなければいけないと言う必要を感じてきました。そのころ、2年位前から安斎さんのお誘いで、今の3H日本語学校のある所にSDA英語学校が有りまして、そこに通っていました。そしてバイブルクラスにも誘われて出席していました。

いつ頃からかキリストの神を信じてもいいなと言うふうに考えるようになりました。信じるイコール信仰ではなかったのですけれども、その少し前に安斎さんがバプテスマを受けていまして安息日の事等も聞いていました。そのあたりも引っかかったりして、これから働く時には、そう言う事も視野に入れて仕事を探そうと考え始めました。

そんな時に、では取り敢えずバプテスマを受けようと思うようになった訳です。そう決意したつもりでも、やはり数日間迷っていたので誰にも話さずに自分の中で本当に良いのだろうかと言う思いで数日間過ごしていました。多分毎週だったと思うのですが、土曜日に英語学校では礼拝が持たれて、その後、聖書研究がありました。

私がお願いした訳ではないのですが、他の方がダラスと言う宣教師の方にプライベートバイブルクラスの聖書研究をして欲しいとお願いして始まった聖書研究に、私も誘われて出席するようになりました。その頼んだ本人は休みがちで、私は真面目に出ていたのですが、悪いから辞めようかなと思っていた頃に、余りにも先生が熱心だったので、私は特に興味はなかったのですが、お願いした人が勉強したいと言って、黙示録を学んでいました。

難しいので分からないことが多いので前もって調べて行くようになりました。そして自分がバプテスマを受けると決心した後の土曜日、勉強が終わってからダラスに決心を伝えました。

きっと驚いて喜んでくれるだろうと思っていましたが、結構穏やかな感じの人だったのですが、何時もの様に変わらずに当然のように「イエス様もバプテスマを受けたのだから」とおっしゃって、ちょっと私は内心がっかりしました。

８ページに続く

敬老者の皆様と楽しく交われた「敬老会」

千葉キリスト教会　女執事長　野中　洋子

祈りつつ、神様からの知恵をいただいて、敬老会のための準備を担当させていただきました。今年は、教団より敬老者への感謝状を作成してくれることとなり、饅頭とともにお祝いとして、お渡しすることが出来ました。

午後のプログラムについては、招待する側からの一方的なプログラムではなく、敬老者の方々との交流を大切にしたいとの思いから、敬老者の方々も、自ら参加していただけるようにと、二人の方から戦争当時の話を、また俳句を趣味として楽しんでおられる方々に、作品を提出していただき、それぞれご自身で読み、また内容について説明もしていただきました。子供たちとのふれあいも楽しくおこなえたと思います。

敬老者の方々には、これからも主による内なる力を発揮していただき、教会にとってかけがえのない存在として、輝いていてくださいますようお祈りいたします。

敬老会にてご披露頂いた「俳句」

竹の春 八十路の旅を 誇らしく	紺野　栄子さん作
思いでも 転がり出でし 桜貝	大岩　要さん作
屋敷跡 我がもの顔の 茗荷の子	佐野　いし子さん作
風薫る 豪華寝台 西へ発つ	網野　清子さん作
送り来し 元気印の サクランボ	篠原　敦子さん作
散る桜 浴びて見上げる 池の鯉	島田　栄さん作
潮の香や 朝餉に広ぐ 若布汁	松本　綾子さん作

作者の、左から紺野さん、大岩さん、佐野さん、網野さん、篠原さん、島田さん、松本さん

１０ページに続く
（次世代に引き継ぎたい「証」その１、その２）

敬老会にてご披露頂いた「次世代に引き継ぎたい『証』」その１

「証」

千葉キリスト教会　井上　睦子

私は、昭和１５年１月浅草で三人兄弟の末子で生まれました。７７才です。

５歳の時、昭和２０年３月１０日東京大空襲で母と14歳の兄と火に追われ用水桶の水をかぶっている時に、隣組の群長さんと会い私は群長さんに背負われ火の反対側へと向かいましたが、母と兄とははぐれてしまいました。

翌日、母をさがし歩き回りました。死体の山、隅田川に死体が重なり、ところどころから赤い炎の出ている情景が、いまだに私の記憶から消えることがありません。

家の焼け跡に立札を残して、群長さん親戚が小岩にあり、そこでやっかいになっていました。どのくらい居たのか覚えていませんが、母の兄伯父さんが夷隅の国吉よりさがしに来てくれ、だきついて泣いたことはよく覚えています。

10歳の姉は学童疎開で宮城県にいましたので無事でした。父は5月マニラで戦病死しました。

姉と二人伯父さんの家に引き取られすごしました。姉は中学校を卒業するとすぐ伯父の家を出ました。伯父さんのところも小さな子供がいて、食べるものがない時代でしたから。

姉は結婚するとすぐ私を引き取りに来てくれました。私が中学3年生の夏休みの時でした。

義理の兄の両親が、シアトルから船で日本に帰ってきました。シアトルの日本人教会の牧師だったのです。そして、初めてイエスさまを知り、都立高校より長浦の三育学院へ編入しました。17歳で洗礼を受け、2年間お世話になりました。悲しい、つらいと言ってはイエス様に助けを求めている私がいました。

安心ケアセンター桜木の体操同好会のボランティアを長くしておりましたが、腰を悪くして相談に行き、ケアマネジャーとして根本さんがついてくださり、千葉教会へと導いてくださいました。感謝しております。

こうして自分の生い立ちを書いていますと、たくさんの人に助けられ、イエス様に導かれていることを感じます。

「証」を語られる

井上睦子さん

敬老会にてご披露頂いた「次世代に引き継ぎたい『証』」その２

「卒寿のつぶやき」

長寿会　佐野　いし子

昭和２０年７月７日、二度にわたる大空襲により千葉の中心街は火災につつまれ一夜にして焼野原になりました。私は当時１７才、空襲を逃れて家族で都川の土手に逃げました。兄は徴兵にとられ残されたお嫁さんは産後の肥立が悪く女の児を残して亡くなりました。栄養不良もあったと思います。その赤ちゃんを背負い逃げたのです。私の母親は何もないその時にどうやって育てたのか、今考えても想像がつきません。私達一家は運よく全員が生きのびることが出来ました。

夜が白々と明け地面にはまだ熱気が残る熱い中を自宅跡に戻ると、きれいに焼けていて柱一本も残っていませんでした。木製の風呂桶のまわりは黒焦げ。でも中の湯は残っていました。田舎よりもらったじゃが芋と玉葱がこんがりと焼跡でむし焼きになって居り何よりの食事となりました。飲み水は風呂の残り湯をきたないとも考へずに飲みました。防空壕の中は全部火が入り丸焼けとなって居り、これで本当に何もかもなくなったと実感した一瞬でした。都川の土手は逃げ惑う人達であふれ、その人達の大半が魚市場のまぐろの様に土手に転がって居りました。

息をしているのか死んでいるのかさえわかりません。血は出ていないのです。その人達を飛び越え、とびこえ自宅に走ったのです。橋の袂でぐったりとして冷たく動かない母親のオッパイを口にして泣いている児がいたのです。その人は私の近所の人でした。その時私はその親子を見ても何の感情もわかなかったのです。恐ろしい事です。人は生死の極限になると何を見ても心は動かず流れにのり動くだけだと知りました。

時の流れは早く１７才の乙女も卒寿となりました。現在の私は幸せに生きております。今一番の望みは平和がずっと続くことのみです。孫、ひ孫にあの様な悲惨な思いはさせてはなりません。私のつぶやきが平和の大切さを少しでも感じていただけたら幸いです。

「卒寿のつぶやき」を
語られる
佐野いし子さん

初等科、中等科合同野外キャンプ報告

SDA千葉キリスト教会　児童伝道部長　高幣　義嗣

10月8日～9日の連休を利用して、千葉県立水郷小見川少年の家にキャンプに出掛けました。連休中という事もあり、帰路の渋滞も考慮して近場（都賀から一般道で1時間40分位）ではありますが、自然に恵まれ河川に近い場所が選定の決め手となりました。

参加者は、教会の初等科（小学生）と中等科（中学生）及びその家族+引率者の合計17名。目的は、野外でのテント設営、宿泊体験と集団行動でのチームワークの強化と向上、協力・協働する事の大切さを学ぶ事としました。

キャンプ前日までぐずついていた天気もキャンプ中の2日間は見事に晴天に恵まれ、我々の活動は神様から祝福されているのだと、改めて実感しました。計画当初は、晴天時と雨天時の活動予定を事前に提出する必要があったのですが、晴れると信じて疑わなかったので、晴天時分しか提出しませんでした。その結果、2度程雨天時の活動予定の催促があり、修正したものを再提出致しました。施設の事務員さんからは晴れ男ですか？と言われましたが、神様のなさる事は全て正しい、と参加者全員が体験し、繰り返しこの体験をすることで、子供達も練達したクリスチャンになっていくのではないかと思います。

さて、初日はオリエンテーションの後、体育館で、入念な準備運動をし、ドッジボールのチームとインディアカのチームに分かれてゲームを楽しみました。特に、大人チームは普段運動する事がなく、ましてや、夫婦チームによる対戦は果たしてどうなる事か？と一抹の不安を感じながら4チームによる総当たり戦を実施しました。

特に栗山家では奥様の活躍などがあり、益々夫婦円満に貢献したイベントになったのではないかと思います。とても盛り上がった時間となりました。

お待ちかねの昼食では、お替り自由と云う事もあり、3～4回とお替りにいく食欲旺盛なメンバーもいました。　野菜がたくさん食べられるというのは、とても嬉しい事ですね。

１３ページに続く

午後からはいよいよテント設営と夕食の準備です。5～6人用の大きなテントを皆で4班に分かれて組み立て、金槌でペグを地面に固定し、雨露を防ぐ為のフライを張りました。それが終わるとメインイベントの夕食づくりです。2班に分かれて、調理、火起こし、食材調達と役割を分担して協働することの大切さを学びました。

夕食後は、プラネタリウムで自然の壮大さを堪能しました。大浴場では、泳いだりしながらはしゃぐ子供達とたっぷり汗を流し、興奮冷めやらぬまま、日頃の喧騒からは味わえない静寂の中、いつの間にか22時頃には皆就寝していたようです。

2日目は早朝6時半起床。テントと寝袋の片づけが終わると、本日の予定は、カヌー体験とウォークラリーです。カヌーは2人用を使用し、ペアを組んで乗り込みました。親子の連携が良く、スムーズに進んでいく艇もあれば、兄弟喧嘩をしながらもそれなりに楽しく、水と格闘しながらの貴重な体験になったのではないかと思います。

カヌーの後は、ウォークラリーです。4ｋｍの道程をマップを頼りに約1時間かけて散策。それぞれ3班に分かれ、子供達の中からリーダーを選び5分間隔でスタートしました。初めての小見川市街地の路地や用水路脇をチェックポイントを目標にしながら進んでいきます。右下の写真にて分かる通り、我が班は永島裕太君のリーダーシップの元、チェックポイントで橋の名前を確認しています。最終日の最後に4ｋｍ歩くという事は、想像以上に大変でした。子供達にとっては、苦労を共にする事でチームワークと仲間の励ましの重要性を学ぶ良い機会になったのではないかと感じています。2日間晴天に恵まれ、祝福されたキャンプとなりました。

賛美アフタヌーンの活動紹介

賛美アフタヌーン　代表　浅川千鶴子

第４９回「千葉県教会音楽祭」が、千葉市民会館ホールに於いて9月18日に開かれました。私達、賛美アフタヌーンも他宗派の教会の皆様と共に、神様を賛美させて頂きました。

SDA 千葉教会の賛美アフタヌーンは2回めの参加でした。私達の目的は、互いの賛美をとおして他教会との交流をはかり、3天使の使命をつたえることです。又、クリスチャンではないけれど一緒に神様を賛美したいと願っている方々にも、共に賛美に加わっていただき、賛美の力をとおして主イエスキリストに立ち返る道を示すことです。

さらに神様からの平安を共に味わい、神様からの慰めを共に頂いて、「神を愛し人を愛する」キリストのみ心に生きることです。

賛美アフタヌーンには、どなたでも参加できます。今年は3人の初参加に恵まれました。子ども達の応援もあり、感謝の一時でした。

神様に心から感謝いたします。

２０１７年９月１８日（月・祝日）千葉市民会館ホールで開催された

第４９回「千葉県教会音楽祭」に参加され、

賛美をする

賛美アフタヌーンのメンバー。

ロン・クルーゼ博士の講演会に出席して（9月16～20日）

千葉キリスト教会　長老　金田　寛子

私たちはだれしも人生の途上で何度も直面する素朴な疑問をもっています。本当に神は存在するのか、存在するのであればなぜ答えのない理不尽な苦しみがあるのか、私たちは何のために生き、死んでいくのか、その答えを探そうとしている私たちにむけて、ロン・クルーゼ先生が5回連続で歴史的、考古学的、哲学的なデータに基づいて、だれでも理にかなった真理を発見できるように講演してくださいました。最初サテライト講演会と聞いたときは映像を通して、聞く者の心に響くのか、また心が通い合うのか心配でしたが、先生の深い知識と信仰に裏付けられたメッセージがすぐに私たちの心をとらえました。

初めて教会の門をくぐった人も、また信仰歴の長い人も聖書がこれらの疑問に対して明確な答えを提供していることに驚くと共に納得のいく真理を見いだせるものと思います.

私も毎晩先生の講演を聞き今までに聞いた事のない新しい発見を体験しました。「聖書を信頼する理由」という４日目の講演では聖書ほど激しい憎しみと疑いをもって、徹底的に攻撃を受けたものはなく、信者からでさえ常に疑問を投げかけられているということで、その信頼性について話されました。聖書の沿革、写本の信頼性、考古学的な証拠、預言、また神の言葉は私たちの生き方をも変えてしまう力を持っていることを話されました。毎晩の講演内容に対して満足度を1から7までチェックするアンケート用紙が配られましたが、ほとんどの人が6か7をチェックされたようです。

この講演会を通して改めて神様から提供されている救いをただ感謝の思いで受け取ることができました。今回クルーゼ先生の講演を聞けなかった人のためにDVDが販売されると聞いています。このすばらしいメッセージを多くの方々に聞いていただきたいと願っています。クルーゼ先生の引用された聖句です。

雨も雪もひとたび天から降れば、むなしく天にもどることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ、種まく人には種を与え、食べる人には糧を与える。そのように私の口から出るわたしの言葉も、空しくは、私のもとに戻らない。それは私の望むことを成し遂げ、私が与えた使命を必ず果たす。

イザヤ書55章10～11節　　アーメン

(北海道旭川市)

１２月、２０１８年１月、２月の行事

◇　広島三育学院高校聖歌隊による「クリスマス音楽礼拝」

☆日時:12月16日(土)☆場所:9時30分より「シャローム若葉『虹の家』」。11時より千葉キリスト教会　礼拝堂。
☆若人の「美しいクリスマス賛美」「クリスマスメッセージ」を楽しんでいただき、共にお祝いしましょう。

◇　クリスマス特別礼拝及び教会クリスマス会

☆日時:12月23日(土)　☆場所:千葉キリスト教会　礼拝堂
☆クリスマス特別礼拝:午前11時～12時　☆教会クリスマス会:午後1時30分～3時
☆クリスマス特別礼拝では、イエスキリストの降誕を祝い、希望と喜びとお恵みに預かりたいと思います。
☆教会クリスマス会では、主イエスのお誕生を、劇や賛美やトーンチャイムの演奏などで楽しくお祝いします。
皆様のお越しをお待ちしております。

◇　クリスマス・コンサート

☆日時:12月24日(日)午後1時～3時30分　☆場所:千葉キリスト教会　礼拝堂
☆コンサート:午後1時～2時30分　☆茶話会:午後2時30分～午後3時30分
☆主イエスの降誕を、皆様とクリスマスキャロルでお祝いしましょう。ヘブンズコワイヤーの賛美や金管六重奏の演奏などをお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしております。

毎月の定期集会

◇　菜食料理講習会

☆日時：毎月、第一月曜日に開催します。午前１０時～１３時
☆場所：千葉キリスト教会　集会室　☆参加費：５００円　☆どなたでもいらして下さい。

◇　聖書セミナー

☆日時：毎月、第二(黙示録)、第四(ダニエル書)水曜日に開催します。午前10時～11時30分
☆場所：千葉キリスト教会集会室　☆講師：千葉キリスト教会牧師　磯部豊喜

◇　サンセット・バイブル・カフェ

☆日時：毎月第四土曜日の夕べ開店します。午後５時３０分～７時３０分
☆場所：千葉キリスト教会　集会室
☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができればと願っています。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

12月はお休み。「教会クリスマス会」にお越し下さい。

安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝：午前９：１５～９：２５
☆聖書の学び：午前９：２５～１０：４０

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会：午前１１：００～１２：００
☆シャローム若葉虹の家：午前９：３０～１０：１０

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後６時及び水曜日朝午前７時３０分から祈祷会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」2017年冬号をお届けします。１２月は喜びのクリスマスシーズンです。クリスマス特別礼拝、教会クリスマス会（23日土曜日）、クリスマスコンサート（24日日曜日）のいずれも、皆様に喜んで頂ける企画が一杯です。皆様のお越しをお待ちしています。

SDA千葉キリスト教会
〒264-0028
千葉市若葉区桜木5丁目15番1号
旧法務局前通り:3、4階　千葉キリスト教会
1、2階　シャローム若葉
電話:043(231)3620
FAX:043(231)1634
Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp
ホームページ:
http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/
★発行責任者:
磯部豊喜　牧師
★スタッフ:
酒井　闊　吉田　敏英
綿引　秀子

それから高校・大学を出て、そういう影響もあったのですが、私も真面目に働きました。こちらの教会へも年に何度か家内と一緒に来たことが有ります。年に５，６回来ることが何年か続きました。その頃、宮本先生と言う先生がいらした時です。

私はお酒が好きなものですから毎日飲んでいました。週休二日で五日間の内二日間飲まないと、また寂しくなって毎日終電で帰るようになり家内にもずいぶん迷惑を掛けました。

ある時こんなことが有りました。何時もの様にかなり酔って最終電車で帰ったのです。その時カバンを網棚の上に置いて、ぐっすり眠りこんで、各駅停車の千葉行きに乗ったのですが、あっと気が付くと車掌から「終点の千葉ですよ」と言われて「ああそうか」と思ってカバンを取って帰ろうとしたのですが、上の網棚を見たら自分のカバンが無かったのです。「しまった持って行かれたかな」と思ったのですが、私はカバンには名詞と本ぐらいしか入っていないので別に取られてもいいんです。いいんですがちょっと気持ち悪いなと思いました。しかし網棚の1メートルぐらい先のところに同じ茶色のカバンが有りました。「あっ、ここにあったかな」と思い、取って見たら自分のカバンじゃないのです。

「酒飲みは困ったもんだ」とぶつぶつ言いながら、このカバンは遺失物係にでも届けようかなと思って歩き出したのですが、途中で気が変わったのです。いや、このカバンを持って帰ろう。持って帰ろうと言うのは、お酒は飲んでいても考えはハッキリしていまして、可能性は低いけれど、もしかして私のカバンを間違えてその方が持って行ったのではないかと思ったのです。持って帰れば何らかの形でカバンを交換することが出来るかも知れないと思ったのです。そう思ったものですから良い意味で持って帰ってしまいました。ただ人目も有りますから人の物を持って行くことには気が引けました。場合によっては、これもある意味で大切なことかもしれないと勝手な理屈をつけて持って帰ったのです。

家に帰ってカバンを開けますとつまらないガラクタばっかりで、どんどん物を出して行ったら、底の方から四角い風呂敷に包んだ紙が出てきました。何かなと開けるとその中から祝儀袋に入ったお金5万円が出てきました。それでそう言う大切な物なので持ち帰って良かったと思ったのです。遺失物係に渡してもどうなるか分からないし、置いておいても誰かが持って帰ってしまうし、黙って持って帰り正解だったと思ったのです。

私のカバンには名詞が入っているし、向こうから言ってくるんじゃないかな。そうしたら返してあげようか。しかし言ってくる人が本人かどうか分からない・・・など色々な事を考えながらいたのです。翌日になっても連絡が有りません。私の方からはそのカバンの持ち主の連絡先がどうしても分からないんです。お金だけ入っていて、しかも名字だけしか書いて有りませんでした。これは向こうから電話がない限り返しようがないなと思いました。

2日目の夜遅く、その人から電話がかかってきました。そうしましたらその封筒に書かれた名前と一致したんです。つまりその封筒はその人がどなたからか頂いた物だったのです。結局そのカバンの持ち主とお会いして色々とお話した次第です。

真面目にやるのも大切ですが、色々な事を考えながら、たとえ裏の裏が表でも、そう言う事はやって見ることが大切なことなんじゃないかと自分なりに一つの教訓を得た様な気がします。これはお互いに目出度し目出度しなのですが、多分これもイエス様が導いて下さった判断を、私が実行しただけではないかなとそう言うふうに思った次第でした。以上取り留めのない話になりましたが、私の「証」をさせて頂きました。どうも有難うございました。

２０１７年９月２日（土）の
「証しと賛美の集い」における
「証し」より
掲載させていただきました。